

船井情報科学振興財団 留学報告書

2014年6月

荒木 淳

1. はじめに

私は、2012年8月よりカーネギーメロン大学コンピュータサイエンス学部言語技術研究所 (The Language Technologies Institute of the School of Computer Science at Carnegie Mellon University) の博士課程に在籍しています。今回の留学報告書は四回目になります。振り返ってみると、これまでの報告書では上記の博士課程における留学に至るまでの経緯の話が多く、現在の留学先である大学や学科についてあまり触れていなかったため、この報告書では簡単ながらその紹介をしようと思います。

2. カーネギーメロン大学

カーネギーメロン大学 (以下 CMU と略記) は、現在のところ 19 人のノーベル賞受賞者と 12 人のチューリング賞受賞者を含めて、顕著な業績を残した人材を多く輩出しています[1]。チューリング賞というのは、ノーベル賞ほど有名ではないかも知れませんが、コンピュータサイエンス分野で永続的で重要な技術的貢献を達成した人物に対して、年に一度 Association for Computing Machinery (ACM) より贈られる賞であり、その榮譽からしばしばコンピュータサイエンス分野におけるノーベル賞と言われます[2]。その歴史は比較的新しく、1966年に当時 CMU に在籍していた Dr. Alan J. Perlis が最初の受賞者になってから、これまでに計 48 人が受賞されています。このうちの 12 人 (25%) が CMU の関係者であることから分かるように、CMU はコンピュータサイエンス分野において絶えず世界最先端の研究を担ってきたという歴史があります。そのような大学のコンピュータサイエンス学部 (School of Computer Science) に身を置いて研究をしていくことは大変光栄なことですし、博士学生ながら非常に良い環境に恵まれていると感じます。下に、私のオフィスがある Gates Hillman Complex (GHC) の写真を載せておきます。



GHC の正面入口



Randy Pausch 記念歩道橋から見た GHC

3. 言語技術研究所

言語技術研究所(Language Technologies Institute、以下 LTI と略記) [3]は、CMU のコンピュータサイエンス学部 に属する 7 つの学科のうちの一つです。前身である機械翻訳センター(The Center for Machine Translation)は 1986 年に設立され、その 10 年後の 1996 年に現在の名称に変更されました。現在ではピッツバーグキャンパスの教員も 30 名程、学生も 150 名程の規模になっています。研究の現場では、プロジェクトを主体として研究チームが編成され、時には学科の垣根を越えた自由でオープンな環境で研究が行われています。学期中は、外部の研究者による講演を聴く LTI Colloquium[4]と呼ばれるコロキウムに加え、一年を通じてランチセミナーのような内外の研究発表を聴く機会が多くあります。

物理的な研究環境についても少し触れておきます。まず上述の GHC は 2009 年に建てられたのですが、その時に LTI も GHC に移りました。それから 5 年程経過して上記の通り学科が大所帯になってきたので、スペースの確保も難しくなっている模様です。現在は博士課程の学生は 3 人に一つの個室が割り当てられており、その部屋は 7 畳程度で本棚やホワイトボードを共有して使っています。テーブルの大きさも十分で、手狭に感じることはありません。共用エリアでは小ミーティングができるようなスペース(テーブルと椅子)が用意されており、コーヒーや飲料水が無料で飲めるようになっています。

4. おわりに

LTI の博士課程に入学してから早くも二年ほど経ちました。その間に三つの学会で研究発表を行い、来月四つ目の学会で研究発表を行う予定です。この二年間常々注力してきたのは、与えられた研究資源をいかに活用し、より良い研究成果をより短期間に産出していくか、という点です。今後も良い研究成果を産み出し続けられるよう努力を続けていきたいと思えます。

5. 参考文献

- [1] http://en.wikipedia.org/wiki/Carnegie_Mellon_University
- [2] http://en.wikipedia.org/wiki/Turing_Award
- [3] <http://lti.cs.cmu.edu/>
- [4] <http://colloquium.lti.cs.cmu.edu/>